NTTデータ

特定健診データをASPで提供する「健康データ流通サービス」

生活習慣病対策として健診・保健指導が義務化へ

わが国の国民皆保険を堅持し、将来にわたって持続可能な医療制度にしていくことを目的として、保険・医療の抜本的な制度改革が進められている。その改革において医療費をいかに適正な額にするかが大きな課題の一つである。生活習慣の変化や高齢者の増加による生活習慣病の有病者・予備群の増加が、医療費増加の要因と考えられており、国、保険者、都道府県、市町村等が協力して、生活習慣病の予防に取り組む必要がある。具体的な対策として、生活習慣病有病者もしくは予備群を25%減少すること、健診・保健指導にメタボリックシンドロームの概念を導入すること、40歳～74歳の被保険者に、生活習慣病発症の予防を目的とした特定健康診査・特定保健指導を義務化すること等がある。

ネットワーク連携により利便性を高めたNTTデータの「ヘルスケアサービス」

NTTデータは、今後の医療課題を解決するため、ネットワークを効果的に活用したヘルスケアサービスを提供している。このヘルスケアサービスは、医療保険者、事業主はもちろんのこと、医療保険者及び事業主から業務をアウトソーシングされる健診機関等にも利用しやすいというメリットがある。具体的には次のような特長がある。

①保険者と事業主の共同利用を実現

生活習慣病対策には、特定健康診査・特定保健指導を担当する保険者、及び保健指導を担当する事業主が連携して、組合員（特に被保険者）や社員の健康管理業務に携わっていくことが求められる。NTTデータは「Health Data Bank（ヘルスデータバンク）」を提供し、保険者と事業主が共同で利用するサービスを実現している。

②他のシステム等との連携が容易

事業主は保険者に対して、社員の特定健診データや特定保健指導データを提供することが求められている。前述の「Health Data Bank」やオムロンヘルスケアと共同で提供する「保健指導支援サービス」は、標準的なデータ流通フォーマットに対応したデータの出力が可能である。

③セキュリティ／プライバシー

単にシステムを構築するだけにとどまらず、携わる人材への継続的な教育をはじめ、高度なセキュリティノウハウ・プライバシーポリシーをベースに健康に関する大切な情報を管理し、ユーザーが安心して利用できる体制を構築している。

㈱NTTデータ
ヘルスケアシステム事業本部
ヘルスケア担当
松下 大介氏

④個人健診データの照会機能、バイタルデータ、ポイント等、個人に焦点をあてた取組み

業務を効率化するだけではなく、健康管理に必要なものを一人ひとりで管理できるような、利用者の主体性を重視した取組みを行っている。例えば1998年に、行動科学に基づく生活習慣改善支援サービスとして「三健人」の提供を開始した。2006年5月には、IT歩数計を用いた「ウォーキングプログラム」、歩いた歩数に応じてヘルスポイントがたまるインセンティブプログラム「ヘルスポイントサービス」の提供を開始した。

また、NTTデータが提供するヘルスケアサービスの中でも「健康データ流通サービス」は、切迫した課

題となっている「特定健康診査・特定保健指導」に対応したサービスとして注目されている。

特定健診データの電子化対応を支援する「健康データ流通サービス」

2008年4月からスタートする「特定健康診査・特定保健指導」への対応に向けて、健診情報の電子化対応、電子的標準様式への対応、保険者・事業主へのセキュアな送付等が必須とされている。

電子的標準様式への対応については、東京大学の大江和彦教授が中心となり、データ整備に関する検討が行われている。その上で厚生労働省の「特定健康診査・特定保健指導の円滑な実施に向けた手引き」により、特定健康診査・特定保健指導のデータファイル仕様が決定される。（参考：健診データの電子的管理の整備に関するホームページhttp://tokuteikenshin.jp/）

NTTデータは、特定健診データの取扱いを支援する「健康データ流通サービス」を提供している。このサービスでは、電子化や独自フォーマット情報の電子的標準様式（XML）への変換などを行う。IP-VPNで構築したネットワークを活用するASPサービスであり、セキュアな環境でデータをやり取りすることができるのが特長である。

「健康データ流通サービス」は大きく次の3種類に分かれる。地域医師会向けの「POSTOS-MA」、病院・健診機関向けの「POSTOS-HOSP」、健保組合向けの「POSTOS-HIS」である。

NTTデータの松下大介氏は特に「POSTOS-MA」について「特定健診データの電子化を行う上で、健康診断の取りまとめを行っている多くの地域医師会様から、『POSTOS-MA』に関する問い合わせが来ています」と語っている。

超低価格での代行入力サービスを提供

NTTデータの「POSTOS-MA」は、厚生労働省が定めた電子的標準様式のフォーマットを基に、手書きの特定健康診査入力票や所定のCSVファイルを地域医師会にて取りまとめ、送付またはアップロードしてもらうことにより、特定健康診査へ対応した電子的標準様式（ZIPファイル・CD）や特定健康診査受診結果（PDFファイル・紙）を作成する地域医師会向け代行入力サービスである（図1参照）。

㈱NTTデータ
ヘルスケアシステム事業本部
ヘルスケア担当
シニアエキスパート
井上 裕之氏

同サービスのシステム開発にあたって、NTTデータの井上裕之氏は次のように語っている。「非常に短期間のうちに開発しなければならなかったため、技術的にはシンプルに集約したシステムとなっています。厚生労働省の手引きにより、基本的な特定健診データ用のファイル仕様が公開されていますが、頻繁に更新されるために現場での運用やデータ流通システムの仕様に影響が出ることがあります。そこで、目まぐるしく変化する仕様に対応するプロジェクト管理能力が求められました。」

「POSTOS-MA」は、紙にマスター情報を記入して送付すれば、

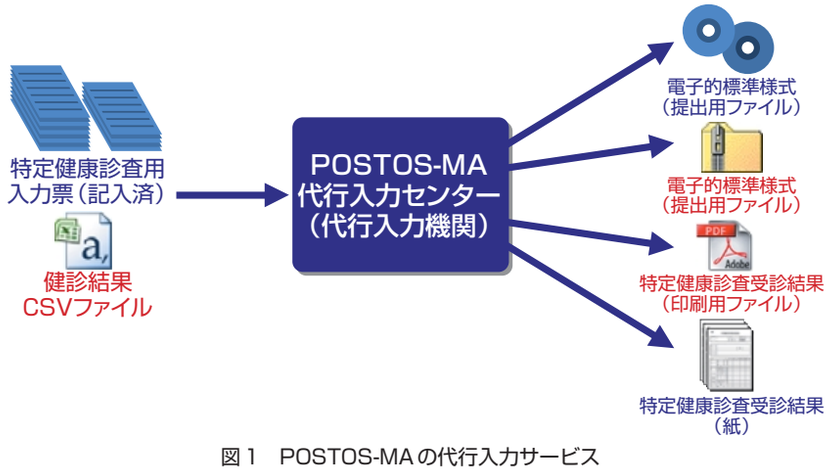
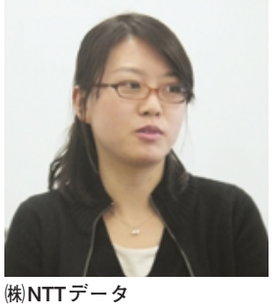


図1　POSTOS-MAの代行入力サービス



㈱NTTデータ
ヘルスケアシステム事業本部
ヘルスケア担当
北野 暁子氏

NTTデータがシステム上でのマスター設定を実施する。マスターの内容は、検査法に応じた検査の基準値、健保組合からの契約に関する情報等がある。

NTTデータの北野暁子氏は、マスター処理について次のように語っている。「一般の入力サービスに比べて、入力費用を約4分の1程度の価格で抑えることができました。その要因として、文字入力を最小限にしたことがあります。日本語入力が多くなるほどヒューマンエラーの原因となるため、日本医師会様との調整で、入力票に工夫をしてマスターの項目設定ですべて数値コード化を行い、文字入力は医師のお名前のみとしていただきました。この様式を調整するために何ヵ月かを要しましたが、結果として利便性を向上させ、費用を抑えることに繋がりました。弊社では『Health Data Bank』をサービスとして提供する中でデータ入力についてのノウハウを蓄積しており、このサービスに関わったチームで代行入力サービスのシステムを開発しております。」

図2　代行入力サービスの仕組み

「POSTOS-MA」では、地域医師会のデータ環境に合わせて、次の4つのメニューを用意している（図2参照）。各サービスの料金体系は表1のようになっている。

①特定健診関連ファイル作成サービス（基本サービス）

データエントリーされたCSVファイルから、電子的標準様式ファイル及び特定健康診査受診結果ファイル（印刷用PDF）を作成する。

②特定健診結果代行入力サービス

ユーザーがCSVファイルを用意することができない場合、特定健康診査用入力票に記入された健診結果からCSVファイルの作成を代行する。

③特定健康診査受診結果印刷サービス

特定健康診査受診結果の印刷が不可能な場合、特定健康診査受診結果ファイルの印刷を代行する。

④特定健診結果CD作成サービス

ネットワーク利用が不可能な場合、電子的標準様式ファイルをCDに焼き付ける業務を代行する。

	提供サービス	料金
①	特定健診関連ファイル作成サービス（基本サービス）	100円/件
②	特定健診結果代行入力サービス	250円/件
③	特定健康診査受診結果印刷サービス（A3両面）	100円/枚
④	特定健診結果CD作成サービス※	1500円/枚

※CDの作成は通常1地区医師会につき月に1枚ずつ。

郵送費（実費）	メール便（1枚～約300枚）	540円/個口
	ダンボール（約300枚～約2000枚）	1540円/個口
梱包資材費（実費）※	メール便（1枚～約300枚）	170円/個
	ダンボール小（約300枚～約1000枚）	280円/個
	ダンボール大（約1000枚～約2000枚）	320円/個

※POSTOS代行入力センターへの送付は、指定した梱包資材を利用。（メール便のみ。ダンボールは各自準備。）

表1　サービス料金体系

「POSTOS-MA」導入までのサービスの流れとして、まずサービス規約を郵送もしくはWeb上で受領した上で、サービス利用申込書・基本情報登録用紙に必要事項を記入して提出する。POSTOSネットワークへ加入する場合は、フレッツへの加入（NTT東日本・NTT西日本への申込み）を行い、POSTOSネットワークへの加入申込書を提出する。POSTOSネットワークのIDを受領した後、ネットワークの設定を行う。

代行入力サービスは、医療現場のデータ入力環境に対応して複数のサービスを選択することができる。

＜サービス利用例1＞データエントリー・ネットワーク敷設・印刷が可能な場合、CSVファイルをアップすれば、特定健康診査受診結果（PDF）と電子的標準様式（ZIP）を作成することができる（図3参照）。

＜サービス利用例2＞ネットワーク敷設・印刷が可能な場合は、記入済の特定健診用入力票を送付すれば、A3サイズ両面に、特定健康診査受診結果（PDF）と電子的標準様式（ZIP）を作成することがする（図4参照）。

＜サービス利用例3＞記入済入力票の取りまとめのみできる場合には、記入した入力票を送付すれば特定健康診査受診結果（紙）と電子的標準様式（CD-R）を作成することができる（図5参照）。

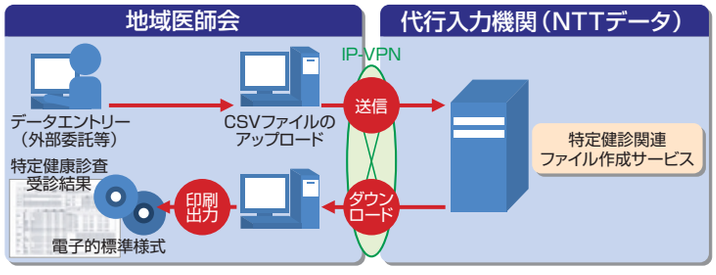


図3　サービス利用例1

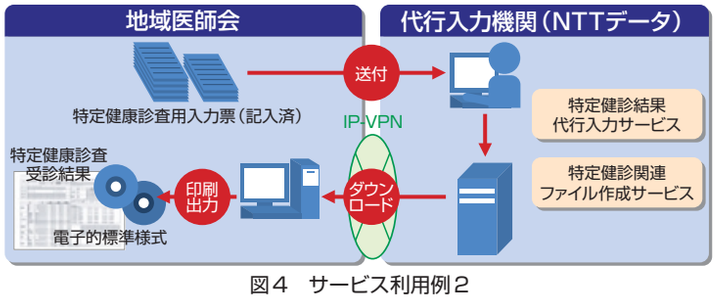


図4　サービス利用例2

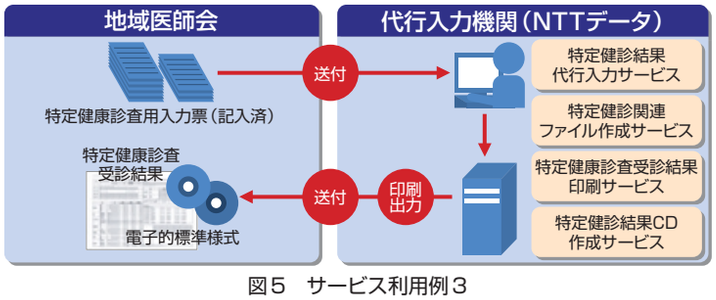


図5　サービス利用例3

病院・健診機関・健保組合向けの入力代行サービスも検討

本サービスは2008年2月中旬から申込受付を開始しており、制度が始まる2008年4月の新年度から特定健診結果の受付を開始する予定である。

前出の松下氏は、今後の展開について次のように語っている。

「地域住民の方にとって診療所は一番身近で重要な医療機関です。地域医師会様を通じて、診療所の先生方を支援し地域医療に貢献できるようなサービスを今後も展開していきたいと考えています。

また、『POSTOS-HOSP』や『POSTOS-HIS』の取組みも並行して準備しています。大中規模の病院や、健診専門施設等に設置された既存システムをカスタマイズすることなく、現状システムからのCSV出力ファイルから特定健診に対応できるよう検討していきます。

さらに、企業では事業主健診を行っていますが、現在のデータはXMLフォーマットに変換するという義務がなく、保険者でのデータ処理が必要となります。保険者向けのサービス立ち上げも急務だと考えています。」

お問い合わせ先

株式会社NTTデータ
ヘルスケアシステム事業本部
ヘルスケア担当
TEL：03-5546-2504
URL：http://www.design4life.jp/